

春ノ七裏

その暮へくれにやどへ帰へかへりたれば妻子眷属へさいしけんぞく

親類兄弟等此次第へしんるいきやうだいとうこのしだいをよろこふけしき

かぎりなし是へこれにつけても世のはかな

き事のみ思はれて出仕へしゆつしのでたち

はかなく覚えて發心へほつしんのところぞまさり

ける法勝寺へほつしやうじの御八講へみはつこうに御幸へみゆきならせ

たまふにのりきよ御供へとも仕たりけるに

いかなる事かありけん門かためたる六条へでうの

大夫判官へたゆふほうぐわんのしもべに兵衛尉へひやうゑのぜうの郎等へらうどうを